

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2007.2.1~2.28)

## 刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』580号(2007年3月)

## 図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	28	12	40
受 贈	59	1	60
合 計	87	13	100

## 閲覧サービス

### 閲覧

開館日数 17日

閲覧人員 18名

貸出図書 20冊

### コピーサービス

学外 20件 3650枚

学内 13件 770枚

## 日 誌

### 7日 戦後労働運動研究会

担当年の収録資料について(五十嵐仁),  
組合名簿について(永田瞬), 組合組織  
系統図について(芹沢寿良), テーマ別索  
引について(早川征一郎)

### 13日 戦後労働運動研究会

テーマ:「テーマ別索引について」  
報告者:早川征一郎

### 17日 共同研究プロジェクト「福祉国家と家族政策」 研究会

テーマ:「イギリスにおける家族政策の現  
状と動向」  
講師:岩間大和子氏(前国立国会図書館調  
査立法考査局専門調査委員)

### 19日 共同研究プロジェクト「国際循環型社会形成 の可能性」研究会

テーマ:「自然公園法の実際と問題」  
講師:小祝慶紀氏(国土館大学講師)

B3書架増設工事(~3月7日)

### 21日 運営委員会

議題 次期運営委員について  
次期兼任研究員について  
次期嘱託研究員について  
研究員総会について  
その他

### 研究員総会

#### 公開記念講演会

テーマ:「ジャーナリストから見た日本  
の労働組合運動の現状と課題」

講師:中野隆宣氏(元朝日新聞社会部記  
者)

#### 総会

#### 懇親会

### 24日 加齢過程における福祉研究会

テーマ:「介護予防の課題と現状について  
考える」

講師:東内京一氏(和光市保健福祉部長寿  
あんしん課)

### 28日 事務会議

『日本労働年鑑』編集会議

大原社会問題研究所雑誌 No.583 (2007年6月号)

2007年6月25日発行

定価 1,000円(本体952円),年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

所長 相田利雄

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042(783)2307

## 投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文，調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

### 投稿規定

1. 投稿原稿は2部とし，ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は，原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には，審査に資するため，600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は，本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て，本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は，研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には，所定の原稿料をお支払いいたします。

#### 【原稿送付先】

〒194-0298 東京都町田市相原4342

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

### 論文執筆要領

論文を執筆される場合には，下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には，原則として原稿を返却しませんので，原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には，ある程度の行間を取って下さい。

#### 1 一般的な原則

横書きとする。

タイトル，氏名の次に簡単な目次をつける。

原稿の最後に，執筆者名（ひらがな），肩書き（所属，職名）を記入する。肩書きは大学の場合には，学部，研究所等の名称まで表記する。

注をつける場合には，各章ごとに分割せず，最後に一括し，通し番号をつける。

図，地図などは，可能な限りトレース済のものを提出する。

#### 2 注記の方式

日本語の図書・論文の場合

A. 日本語で書かれた図書については，著者名，書名（書名は『』で囲む），出版社名，発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には，発行年の次に記入する。

B. 著者が2人の場合には，両者の姓名を書く。3人以上の場合には，「他」の方式も可とする。

C. 論文については，執筆者名，論文名（「」で囲む），掲載雑誌名（『』で囲む），巻号，発行年月日の順に書く。

D. 注の最後は，かならず「。」で止める。

欧文の図書・論文の場合

A. 欧文の図書については，著者名，書名，発行地（あるいは出版社名），出版年を書く。書名は，イタリックにするので，下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。

B. 論文の掲載雑誌名は，イタリックとする。

C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。

D. 注の最後は，かならず「。」で止める。

以上